

## 第6回 特別企画展 『総義歯の原点は日本にあった』

平成10年8月30日(日)、午後2時から愛知県歯科医師会館で第2回県民8020健康教室を開催いたします。演題は「木床義歯」についてです。今月のトピックスは木床義歯について取り上げてみました。

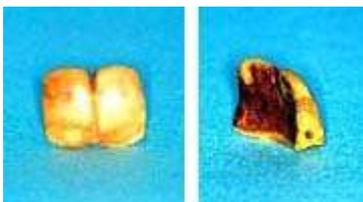
### 総義歯のルーツは日本



現存する世界最古の義歯は、1538年(天文7年)に74歳で亡くなった和歌山市の願成寺の尼僧仏姫(俗名中岡テイ)の黄楊製の上顎総義歯です。西洋では、義歯の創始者といわれるフランス人のピエール・フォシャールが初めて総義歯を作ったのが1738年ですから200年以上もまえからわが国には近代総義歯の原型があったこととなります。

写真の木床総義歯は、平成4年第6回特別展「総義歯の原点は日本にあった」で展示していた平沼謙二先生所有のものですが、黒く塗りが施されているところから女性が使用していたものと思われます。

### 木製の局部床義歯



左の写真は獣骨製の局部床義歯ですが、木床義歯の前歯部の人工歯として獣骨、象牙、蠟石、貝などを加工してはめ込んだり、糸を通して結びつけたりしました。臼歯部には鋼や真鍮の釘を打ち込んでもちいました。また人工歯の植え込みをせず、直接床用材に歯を彫刻することもありました。